

*Hernandia, Abelmoschus, Heritiera, Barringtonia, Terminalia, Callophyllum, Blastus, Bruguiera gymnorrhiza, Melastoma, Stimpsonia, Sideroxylon, Maba, Cerbera, Ochrosia, Tournefortia, Thysanospermum, Viburnum sandankwa, Wendrandia, Leucas, Bryonopsis, Alsophila glabra, Alsophila formosana. Prosaptia* etc.

## ウラジロマキ科 (Amentotaxaceae) に就て

小 泉 源 一

ウラジロマキ (Amentotaxaceae) は、工藤、山本兩氏により、一九三一年熱帯農學雜誌第三卷第二號第百十頁に於て發表されし一新科にして、尙詳細は山本氏により植物研究雜誌第八卷二號及び續臺灣植物圖譜第五號に於て發表されてある。

不肖の見解によれば此新科は宜しく一位科 (Taxaceae) の内に包括すべきものにて、次の如く排列したき考なり。

### Taxaceae

#### Subfam. 1. Taxoideae (一位亞科)

1. *Torreya* (カヤ屬)

2. *Taxus* (イチキ屬)

#### Subfam. 2. Amentotaxoideae (ウラジロマキ亞科)

3. *Amentotaxus* (ウラジロマキ屬)

4? *Austrotaxus*.

兩氏は Amentotaxaceae を獨立さすべき理由に就ては餘り述べられざるが故に、其意見を知る事難きも不肖の見解にては、種子に就ては勿論問題外にして、雄毬花は其形態之をイチキの雄花より遠きものにあらず、唯イチキの雄毬花が單生なれども、ウラジロマキの雄毬花は穂狀花序を成すのみなり、故に花が單生なると花序を成すとで科を異にするものには非ずと愚考す。雌花は氏の前圖と後圖とは余り異なるから何れが眞か、よく分らぬが、氏の Epimatium となすものは然らずして不發育の Arillus に他ならず。

## 日本南部に於けるキク屬の分布

田 代 善 太 郎

イハギク (*Chrysanthemum hakusanense* MAKINO) 本州にては白山、日光其他に